

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 高等学校第Ⅱ学年

自由民権運動の展開 不平士族の反乱・農民騒擾と松方財政
大隈財政と松方財政

授業者 栗谷 好子

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 地理歴史科 日本史A 学習指導案

指導者 栗谷 好子

日時 令和3年8月27日(金) 4限

場所 第1社会科教室

学年・組 高校2年39人(男子19人, 女子20人)

単元 自由民権運動の展開 不平士族の反乱・農民騒擾と松方財政

知識目標 (1)明治新政府の政策に対して, 士族・農民それぞれが反政府運動を展開した。
 (2)士族と豪農はそれぞれ異なる目標をもって国会開設を求め, 士族は政権への復帰であり, 豪農は租税審議権を要求した。
 (3)定額地租によってインフレ期に豪農は豊になり, 士族は困窮化, 政府は実質歳入が目減りした。反対に松方財政期には, 農民は困窮化し, 没落する者も現れた。
 (4)1880年代に困窮化した農民は激化し, 沈静化した後に再び政府攻撃を行った。

指導計画 (全4時間) (1)征韓論と不平士族の反乱, 農民一揆(1時間)
 (2)自由民権運動(1時間) (3)1870年代後半の財政状況と松方財政(1時間)…本時
 (4)激化事件と自由民権運動(1時間)

授業について 本時で扱う大隈財政と松方財政は, 連続して捉えられ一つの財政政策というとらえ方もあるが, 180度方針が異なる財政政策と捉えることも可能である。(大隈財政は積極財政, 松方財政は緊縮財政) 180度方針転換した政策による社会や人々への影響を考えさせることのできる教材である。

題目 大隈財政と松方財政

本時の目標

- ◎積極財政・緊縮財政を理解し, 両者の財政政策のメリット・デメリットを考えて, 現在の財政政策について考え, 自己の意見を述べることができる。
- ・1870年代後半の国内の経済状況を, グラフ等から読み取り説明できる。(知識・理解)
- ・1870年代後半の経済状況の背景・原因には, 西南戦争や大隈財政によることが説明できる。(知識・理解)
- ・1880年頃に出された, 5000万円の国債発行案に対する是非を論ずることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・1880年代前半の松方財政の実際と影響を説明し, 現在の財政政策について意見を述べるができる。(知識・理解)

本時の評価規準

A それぞれの財政政策のメリット・デメリットを政府・農民のそれぞれの立場から, 理由とともに説明している。 B それぞれの財政政策のメリット・デメリットを政府・農民のそれぞれの立場から, 理由とともに部分的に説明している。 C 部分的に無記入である。 D 無記入

本時の学習指導過程

本時の展開

	発問・指示	活動	資料	学習内容
導入 (5分)	○現在の日本の経済・財政状況はどのようなものか。 ◎各財政政策のメリット・デメリットにはどのようなものか	T 学習課題の提示 T 発問	①	・2021年度予算 規模100兆円超。 歳入の内, 公債費が43兆円超。昨年度より10兆円超増加。依存度40.9% ・今後のコロナ禍の保障等を考えれば, 減税すべきでない。消費税維持, またはすぐ

	があるのか。			に全商品 10% ・コロナ禍で苦しんでいる人が多いから、 減税すべきでは。
展開 1 (15 分)	○諸資料をみると、1881 年 前後でさまざまな指標を分け ることができる。次の事柄 は、1881 年前後でどのよう に変化しているか。 ・個人で読み取ってから、グ ループで確認しよう。(4人 班の班別に割り当て、あとで シェアする。) SQ1 1881 年以前・以後につ いて。どのような特徴をもっ ているか。	T 資料の 配布 T 発問 S 資料を 見ながら ワークシ ートに沿 って読み 取って記 入してい く	② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	・1881 年以前。積極財政。大隈大蔵卿が 推進した。 ・1881 年以後。緊縮財政。松方正義大蔵 卿が推進した。 ・インフレからデフレへ。財政収支・国際 集の赤字から改善。
展開 2 (15 分)	SQ2 2つの対照的な財政政 策それぞれの、メリット・デ メリット(誰にとって得なの か、損なのか)を同様にまず は個人で考え、2人で意見交 流し、4人班でメリット・デ メリットを確認しよう。	T 資料の 配布 T 発問 S 解答	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑦	・政府と農民それぞれの立場から考える。 ・紙幣価値が上がり、銀兌換制度、日本銀 行券が発行されるに至った。 ・一時百万円強しか正貨がなかったもの が、数千万円規模まで回復した。
展開 3 (10 分)	・実際に政府首脳で議論され た1881年段階で「内国債 5000万円発行案」につい て、グループで議論しよう。	T 指示 S 議論		反対－借金しても返済しなければならない。 賛成－農民がわずかな負債で耕地を全て取 り上げられることもなかったのではない か。
終結 (5 分)	◎各財政政策のメリット・デ メリットにはどのようなもの があるのか。 ○(2021年現在の) 今後は どうしていくべきか。	T 発問 S 解答 T 発問 S 記入		◎立場によって、有利不利の政策が異なっ てくる。予算案の見え方も変わってくる。 ・納税者に有利、不利がでてくる ・考えを記入する。

授業資料 ①「令和3年度予算フレーム」(url,省略) ②「主要経済指標」 『日本歴史大系』より
粟谷作成 ③「明治初期の政府歳入」:三和良一,原朗編(2007)『近現代日本経済史要覧』,p.57 ④
「紙円ベース期待インフレ年率の推移」:室山義正(2014)『近代日本経済の形成 松方財政と明治の国
家構想』千倉書房, p.170 ⑤「通貨流通高の変遷」 ⑥「米の生産高と地租負担の動向」:室山同上,
p.228 ⑦「銀貨1円に対する紙幣の相場」 ⑧「『身体限』の人数と負担金額の推移」:室山同上 p.223
⑨「小作地率別府件数の推移」:『図録』 ⑩「府県会議員有権者数の推移」:室山同上 p.293 ⑪
海野福寿「松方財政と地主制の形成」(1978)『岩波講座 日本歴史 15 近代2』p.121

研究協議

授業者より

1880年代について、生徒に話し合いをさせた。「主体」性をめざして話し合わせ（対話的）、知識の注入ではない（デフレ政策により地主宗層が打撃を受けたという知識だけではない）、少し「深い学び」を目指した取り組みを行ったが、時間が不足し借金のメリット、デメリットについては次時に書かせた。生徒は、外債、内債の長短を書いていた。また、今の状況とも関連させたかったが、生徒にとっては少し難しかったようであった。

討議内容

・歴史総合の授業をつくっているが、現在からさかのぼって作りたいと思っている。この授業は今を学ぶ参考になるのか。

→もう少し、現在と関連させたかった。

・インフレ、デフレの対比がよかったが、もう少し多くの立場があればよかった。借金していてもコントロールされていればよいはず。借金していても、破綻しなければよいのではないか。デフレは弱い立場にダメージがある。特定状況を現在にあてはめるのは適切だろうかと思う。

・帰結がわかっているので、そうならないようにとっていたのか。

→当時も借金するかは議論があった。しかし、結論が見えている現在において討議させるのは困難を伴った。

・歴史総合で、公民の内容も入れていけるのか。

→社会科の中で、歴史と公民で横断的に学習できると考えるが、新学習指導要領では、歴史の新しい形が最優先かと思う。

・一方で、すべて現在との比較では、難しい。本来の歴史の学習ができない。

・近現代のことを、まとまりごとに学ぶことになっている。それぞれごとに、振り返りがあると思う。

・探究ファクターのどれと結びつけたのか。

→資料を読み解く、考える、悩む、話し合う、聞く、まとめる。